

令和5年度

環境科学セミナー

無料

第一部 基調講演

「弘前大学が取り組む 福島県浪江町復興支援活動」

弘前大学被ばく医療総合研究所 教授・所長
弘前大学アイソトープ総合実験室 室長

床次真司氏

Shinji Tokonami 1964年鹿児島県生まれ。

早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻。博士(工学)。放射線医学総合研究所研究員、室長、この間に米国エネルギー省環境測定研究所客員研究員を経て、現在は弘前大学被ばく医療総合研究所計測技術・物理線量評価部門教授。また、研究所長及びアイソトープ総合実験室長を兼務。その他、広島大学、中国・衡陽師範大学、タイ・チェンマイ大学等の客員教授、国際原子力機関(IAEA)技術協力専門家、国際標準化機構(ISO)専門委員及び幹事、国際電気標準会議(IEC)専門委員、福島県浪江町除染検証委員会委員、青森県顧問、青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議副議長、青森県緊急被ばく医療対策専門部会専門委員等を務める。



単位認定講座



この講座は、あおもり県民カレッジの単位として認められます。

1回につき3単位

第二部 成果報告

●「世界の海のトリチウム濃度の変遷と六ヶ所村沖での観測例」

日本海洋科学振興財団 むつ海洋研究所 小藤 久毅

●「海中のトリチウムは魚の体内にどのくらい入る?たまる?」

環境科学技術研究所 環境影響研究部 石川 義朗

研究紹介パネルや身近に存在する放射線が分かる装置を展示しますのでぜひご覧ください。

日時

令和5年

11月30日(木)

13時30分～16時10分 (開場13時)

第1部 基調講演 (13:35～14:35)

第2部 成果報告 (14:45～16:05)

会場

八戸グランドホテル

2階グランドホール

青森県八戸市番町14 ☎ TEL 0178-46-1234

お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のはがきに住所、氏名等を記入して郵送またはFAXでお申し込みください。電子メール、ホームページからのお申し込みも可能です。

お申し込み・お問い合わせ:公益財団法人 環境科学技術研究所 共創センター

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-71-1270

〒039-3212 上北郡六ヶ所村尾駁家ノ前 1-7 [ホームページ](https://www.ies.or.jp/) <https://www.ies.or.jp/> [電子メール](mailto:kanken@ies.or.jp) kanken@ies.or.jp

主催: 青森県 (公財)環境科学技術研究所 (公財)日本海洋科学振興財団

FAX 送信の場合 0175-71-1270へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290

上北郡六ヶ所村

尾駁家ノ前一番七

公益財団法人

環境科学技術研究所

共創センター 共創推進課 行



差出有効期間
令和5年11月29日
(切手不要)

お名前	フリガナ	参加人数	人
ご住所	〒		
電話番号	()		

環境科学セミナー (八戸会場)

放射線に関する事など聞きたいことをお寄せください。



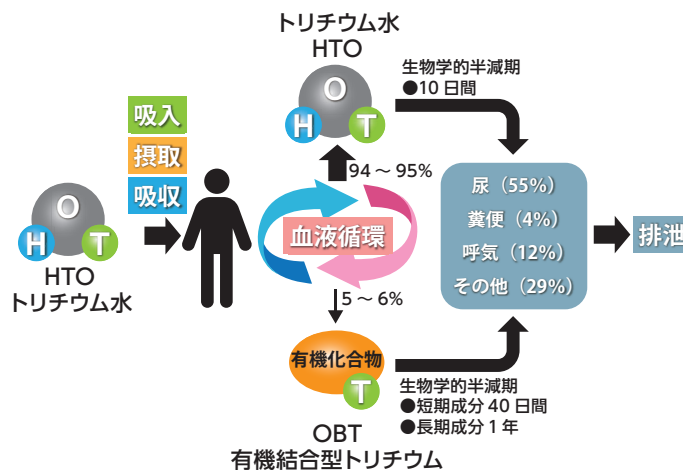
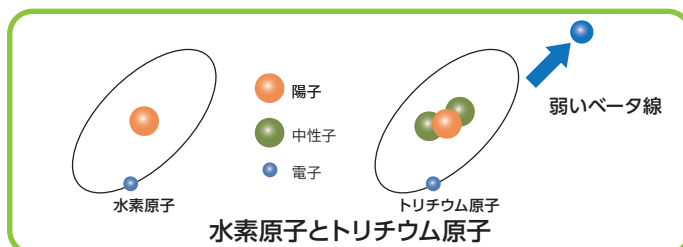
(裏にマキ)

トリチウムの生体影響について調べています

再処理工場からは、通常の運転時に水素の放射性同位体であるトリチウムが空気中や海に排出されます。

排出されるトリチウムも含め、再処理によって排出される放射性物質による人体への放射線被ばく量は自然放射線より少ないとされていますが、環境科学技術研究所（六ヶ所村）では、令和4年度にトリチウム研究センターを立ち上げ、これまでの環境中でのトリチウムの動きに関する調査に加え、トリチウム水（HTO）、有機結合型トリチウム（OBT）といった化合物の違いと生体への影響との関係の解明に関する研究を行っています。

トリチウムは水素の仲間であり、そのほとんどがトリチウム水として存在しています。トリチウムから出る放射線は弱いベータ線のみですので、内部被ばくが考慮すべき課題になります。内部被ばく量は、トリチウムが水である場合と有機結合型である場合で違いがあるのではないかとの声もありますが、現在の評価は体内への滞在時間の推定に基づく安全側の数値になっています。環境科学技術研究所では、化合物ごとの詳細な解析に取り組みます。



日本放射線影響学会「トリチウムによる健康影響」より

調査の詳細はホームページ (<https://www.aomori-hb.jp/>) をご覧ください。